
教育総合センター

だより

NO. 157

令和 2. 9. 1



「いつでも どこでも 楽しく」

尼崎市立金楽寺小学校
校長 中根 孝介

「いつでも どこでも 楽しく」これは、私の師でもあり、友でもある方がよくおっしゃっている言葉です。

何気ない言葉ですが、かみしめてみると、味わい深い言葉です。

人は、何かに一生懸命に打ち込んで取り組み、ある一定の成果を収めると大きな満足感と喜びが生まれます。また、取り組む過程それ自体が喜びや楽しさになり、「充実した楽しさ」が得られるのではないかと思います。一生懸命取り組んだことが、たとえ思うようにいかなかったとしても、反省と分析をすることによって、次につながっていきます。

「楽しさ」は、人の活動にとって、大きな原動力となります。楽しいからこそ夢中にもなり一生懸命にもなります。そして、夢中になるからこそ、より楽しくもなります。

今年に入って、新型コロナウイルス感染症が広がりをみせ、様々なところで行動の制限や自粛を迫られています。学校現場も、3月には突然の臨時休業。4月に入り始業式と入学式は行ったものの引き続きの臨時休業。6月には、午前と午後に分かれての分散登校が2週間にわたった後、ようやく通常の学校再開となりました。夏季休業も小学校では8月1日～8月17日と短縮され、中学校や高等学校でもそれぞれ短縮されています。

学習内容や学習形態、学校行事、学校生活などにも大きな制限や変化が生じ、それに伴う判

断と対応に迫られています。学校だけでなく、家庭にも大きな変化が現れています。

すでに「With Corona (ウィズ コロナ)」とも言われ「新たな生活様式」が模索されています。今後も、新たな局面が生まれ、次々と対応に追われていくことでしょう。

難しい時代ではありますが、人々の知恵はそれに対応できる力があると信じています。制限や自粛が強いられる中、すでに世の中では新たな楽しさや喜びを生み出そうとしています。感染防止対策を工夫し、様々な取り組みも始まっています。オンラインの活用など、これまでになかったことが急速に広がり、新たな楽しみ方も増えつつあります。学校では、本年度中に児童生徒1人1台のPC端末が整備されます。今後、人と人とのつながり方や学校教育のあり方が激変していくことが考えられます。

子どもたちの学びと教育現場の取り組みは、これまでも、これからも続きます。子どもたちや家庭、教職員にも大きなストレスがかかった状況下ですが、学校で考え得る限りの「楽しさ」をしかけ、より多くの人と「楽しさ」を共有していくことができればと思います。

難題も多く、課題が山積していますが、「いつでも どこでも 楽しく」を心がけ、小さな喜びをより大きく、自分の喜びをより多くの人に広げ、そして、周りの人の喜びを自分のものとして感じながら、「充実した楽しさ」を満喫できればと思います。

職員研修 with コロナ（研修形態は新時代へ）

1 はじめに

GIGA スクール構想やカリキュラムマネジメント、働き方改革など教育界における課題は盛りだくさんです。これらの課題に対応していくため、教育書を読んだり、講演会に参加して研修を受けたりしてきた先生も多いかと思います。忙しい日常の中であっても、教員が自らのスキルを上げるためには、研修は欠かせないものです。

しかし、本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、3密を避けるため、従前の研修室に先生方が集まって行う研修が実施できなくなりました。なんとかして先生方に研修を受講してもらう方法はないか、課内で検討した結果、WEB 会議システム Zoom（以下、Zoom）を使用して、今年度の研修を実施していくことにしました。

2 Zoom 研修のメリット

Zoom 研修を実施すると言っても、昨年まで実施してきた研修とは大きく異なり、研修の準備→研修の流れ→振り返りまで、すべて新しく構成し直さなければなりません。初めて Zoom を使用した研修は、初任者研修で、研修担当としては初任者同士のつながりを作る場だった研修が Zoom での研修になり、とても申し訳なく感じました。ただし、コロナ禍の中で中止にするのではなく、Zoom を使って研修を行うことで、本来の研修とは異なり、メリットがあることも分かりました。

1 つ目は、「移動時間の短縮」です。

研修を受けるために、先生がわざわざ教育総合センターまで来る必要はありません。研修時間ぎりぎりまで子どもたちと向き合うことができます。

2 つ目は、「コストカット」です。

今までならあきらめていた遠方の講師の先生にも、依頼がしやすくすくなり、研修の幅が広がりました。

3 つ目は、「研修場所が自由であること」です。

コロナ禍の中、在宅ワークが進んでいますが、在宅であっても、インターネットにさえつながっていれば、研修を受けることが可能です。

4 つ目は、「1対1の研修展開」です。

本来、研修は講師の先生が大勢の受講者に対して、講演を行います。しかし、Zoom 研修では、画面の中の講師の先生と自分が1対1で研修を受けているような感覚になり、結果として研修内容がしっかりと伝わります。

5 つ目は、「提示資料が見やすいこと」です。

パソコンの画面にパワーポイントなどの提示資料が表示されるので、非常に見やすく分かりやすいです。

3 今後の研修

おさまったかに見えたコロナウイルスですが、また拡がりを見せていますので、しばらくは、Zoom に頼らざるをえない状況になっています。研修担当としても、今までのトラブルを解決しながら、研修を実施していきたいと思います。

国や県でも今年度はオンラインでの研修を多数実施しています。またテレワークも官民間問わず、行われるようになってきました。大学ではオンライン授業がかなり導入されていますし、会議もオンラインで実施するところが非常に増えています。Zoom は今までと違う研修の1つの形を示してくれました。

インターネットの世界がより身近な存在となり、教育界においても様々な可能性が広がってきています。今後、社会の変化とともに研修の形態は変わったとしても、常に大切なことが何かを考え、子どもたちのためにつながる研修をしていきたいと思っています。

（学び支援課 研修担当）

WEB 会議システム Zoom を利用した

オンライン研修『新任教頭研修』を受講して

はじめに

新型コロナウイルス感染症の影響によって、学校を取り巻く環境も大きく変わりました。これまでの当たり前や常識があてはまらない状況において、既存の枠や型にとらわれない柔軟な在り方や変更が求められています。

その一つとして、研修が大きく変わりました。今回、初めて WEB 会議システム Zoom を使った研修『新任教頭研修』を受講して、研修内容やオンライン研修で感じたことなどをお伝えします。

研修内容について

新任教頭として赴任して、臨時休業中の対応や新型コロナウイルス感染症への対策などと同時に、通常の業務をこなす慌ただしい毎日が過ぎていきました。教諭時代、教頭職については何となくは見聞きしていたものの、実際になってみると知らないことや分からないことがほとんどでした。自校の校長先生にお聞きしたり、引き継ぎ時に色々と教えてくださった前教頭先生や前任校の教頭先生に伺ったり、また近隣の小学校の教頭先生方にも教えていただきながらの毎日でした。

今回の新任教頭研修では、

- 教頭の実務について
 - 生徒指導事案に関わる初期対応について
 - 学籍事務・就学援助について
 - 特別支援学級編成に係る事務手続きについて
 - 学校給食に係る食物アレルギーについて
- の5つの講話を聞きました。講話は全体に関わることを中心に、4月5月に聞いておくような内容もあるということでした。これまで臆気ながら取り組んでいた教頭の実務について、その根拠となる資料の存在や知っているようで知らなかったことを確認することができ、有意義な時間になりました。

オンライン研修について

今回初めて、WEB 会議システム Zoom を使った研修を受講しました。率直に感じたこ

として、全体の進行もスムーズで、集中して受講することができました。時には参加者の発言や質問を求める双方向のやりとりも行われました。また、講師を映している画面から、プレゼンテーションソフトの画面に素早く切り替わるなど、受講者にとっての「わかりやすさ」を意識した構成になっていました。

講話の中で、WEB 会議システム Zoom を使った研修は初任者研修からスタートして、様々な不都合などがあったことを聞きました。その一つひとつを解決していかれ、現在のようになっていることと思います。

これまでの校外研修では、担任として教室に残した子どもたちや校内での仕事に後ろ髪を引かれる思いでした。また、帰校後は教室でのトラブル対応や自習課題の確認などに追われていました。オンライン研修では、出張の際に係る移動時間が無く、ぎりぎりまで教室で授業をして、終了後もすぐに教室の様子を見に行ける利点があります。また緊急時には、すぐに駆けつけることも可能です。子どもたちに関わる“時間”という観点で、メリットは大きいと感じます。

一方で、校外研修では、研修前後に他校の方と他愛もない話の中で情報交換を行っていました。そこでは、横のつながりを広げるとともに研修とは違う“学び”も多くありました。現状そのような機会が無いことに一抹の寂しさを感じています。

おわりに

期せずして始まった新型コロナウイルス感染症との今年度。これまで考えたこともなかったオンライン研修が当たり前になっています。オンライン研修の良さを生かした取り組みは、これからも発展し進んでいくことと思います。その中で、オンライン研修では得られないものや難しいことを如何に補完していくか。変化が求められる“今”だからこそ、次につなげていく必要があるのだと思います。

(尼崎市立名和小学校教頭 加藤 洋節)

教育情報コーナーのお知らせ

☆教育情報コーナーのご案内

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。教育総合センターでの研修や会議の時など、ぜひお気軽にお立ち寄りください。（3F 教育情報コーナー）

また、必要な図書、資料等のご相談にも応じております。お気軽にお尋ねください。

【新着図書】

- ・『生きる力を身につける 14歳からの読解力教室』 犬塚美輪 著／笠間書院
- ・『子どもの貧困とチームアプローチ “見えない” “見えにくい” を乗り越えるために』
松田恵示 他著／書肆クラルテ
- ・『論理エンジン 小学生版 1～6年生』 出口 汪著／水王舎
- ・『授業づくりの深め方「よい授業」をデザインするための5つのツボ』
石井英真 著／ミネルヴァ書房
- ・『学びの「エンゲージメント」』 櫻井茂男著／図書文化社
- ・『学びと生き方を統合するSociety5.0の教育』 柳沼良太著／図書文化社
- ・『中学校「動き」のある道徳科授業のつくり方』 杉中康平・磯部一雄著／東洋館出版社
- ・『アセス学級全体と児童生徒個人のアセスメントソフトの使い方・活かし方』
栗原慎二著／ほんの森出版
- ・『本当は使える算数教科書 教科書のトリセツ』 尾崎正彦著／学校図書
- ・『ストレスマネジメント理論によるこころのサポート授業ツール集』 富永良喜著／あいり出版
- ・『スマホ世代の子どものための情報活用能力を育む情報モラルの授業』 今度珠美著／日本標準



(担当 松浦)

☆教育総合センターは、知の宝石箱！ 「ひと咲きタワー」は、学びのタワー！

【本の紹介】

■『1回10分！トークタイムできく力を育てるストラテジック・リスニング』（明治図書 2020年7月初版第1刷刊 明治図書）著者 友永達也：1988年兵庫県出身。京都教育大学教育学部卒業。兵庫県尼崎市立水堂小学校教諭を経て、現在、神戸大学附属小学校教諭。

ストラテジック・リスニングとは、目的（合意形成や納得）に向かって意見を創出したり再構成したりするために相手から考えを引き出しながら聞くこと。教室に相互作用を生み出す「訊く」。「訊く」意識を高めることで、友達への働きかける関わりが教室に生まれ、その関わりに応じる形で新たな考えのやり取りが可能となる。「一往復半」の対話。一往復に「半」がつくことで、教室での対話の中で生まれる学びが絡み合いながら高まっていきますと。引き出し言葉として【どう思う？ たとえば？ なんで？ ～ってこと？ ほかに？ しつもん！】を紹介。『対話のあるクラス』を熱望する先生への実践の書。

■『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』（新潮社 発行2019年6月20日、13刷2019年11月25日）著者 ブレイディみかこ：保育士・ライター・コラムニスト。1965年福岡市生まれ。1996年から英国ブライトン在住。アイルランド人の夫と息子の3人家族。2017年に新潮ドキュメント賞受賞。本書は英国での息子や友人たちの中学校生活の最初の1年半を書いたもの。英国の公立学校教育では、キーステージ3（7年生から9年生）からシティズンシップ・エデュケーションの導入が義務づけられている。11歳の息子の期末試験の最初の問題が「エンパシーとは何か」。「自分で誰かの靴を履いてみる」と答えたという。エンパシーとは「他人の感情や経験などを理解する能力」。シティズンシップ・エデュケーションの先生から「きめつけないでいろんな考え方をしてみる事が大事。それがエンパシーの第一歩」。2020.1.5 神戸新聞の社説（年のはじめに）に、本書の紹介と水堂小学校の紹介があった。学校は希望や自己肯定感を育む場になっているか。いま一度、見つめ直すときだと。ほっとして笑顔がこぼれる教室空間を。

※教育総合センターには、すてきな本がたくさんあります。

(担当 谷口)